

甲賀の國づくりプロジェクト
— 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 —
【総合戦略編】



平成27年10月15日時点

甲賀市総合政策部

甲賀の國づくりプロジェクト推進室

甲賀の國づくりプロジェクト

— 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 —

1. はじめに

① 国の動き - 「人口減少社会」からの脱却と地方創生 -

わが国の人口は、平成 17（2005）年に減少局面に入り、少子・高齢化と相まって継続的に人口減少が進む「人口減少社会」となっています。加えて、東京など大都市部に人口が集中することで、地方部の人口構造の持続可能性が大きく損なわれてきています。

こうした状況を受けて、国では「まち・ひと・しごと創生法」を施行、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して、地域の特徴を活かした自律的で持続可能な社会の創生を図るとしたところです

② 甲賀市における地域創生

本市においても、急激な人口減少と超高齢社会化が進むことが見込まれることから、国の制度整備に先んじて、平成 26（2014）年 10 月より「甲賀の國づくりプロジェクト会議」を設置し、検討を進めてきました。

そのなかで、平成 52（2040）年度を遠望し、次世代が暮らす「元気なこうか」をつくるため、国・県の戦略も踏まえつつ、本市の実情を反映した「甲賀らしい」戦略を策定し、5 年間の集中的な取り組みを展開することとしたところです。

③ 策定の経緯

策定にあっては、甲賀市総合計画審議会や関係団体、各分野の有識者などからのご意見等を頂いたほか、各種統計や地域経済に係わる様々なビッグデータの分析結果、市民意識調査結果を踏まえています。

また、「県・市町人口問題研究会」において、県内各地域の現状・課題等の情報を共有するとともに、人口減少問題に係る政策研究や、国・県の動きとの協調などを図りました。

④ 本戦略の構成

この戦略は、本市の人口の現状を把握・分析し、地域社会として目指す人口規模・構造のあり方を描く「人口ビジョン編」と、地域の実情を踏まえて設定した戦略目標とその達成の取り組みを記した「総合戦略編」で構成しています。

2. 戦略の基本理念

市民幸福度の最大化で わがまち「甲賀」の人口減少に挑む

この地に暮らせば、日々の営みに「満足」や「幸福」を感じ取ることができる。誰もが健康でいきいきと、安心して、豊かに、幸せに暮らしている。もし、不幸に苦しむことがあれば、温かい手が差し伸べられる。

そういうまちだからこそ、人は離れず、まちの外から人々が集まる。若者がまちに留まって、新しい家族が生まれ、子どもの声があふれる。

私たちは、誰もが日常の生活で幸せを感じることができるまち、市民幸福度が秀でて高いまちをつくっていくことが、最も優れた人口減少の対策であると考え、これを本戦略の基本理念とします。

3. 戦略の目標

この戦略の目標として、国の戦略の枠組みと上述の基本理念を踏まえて、以下の4つを掲げます。

目標1：みんなの憧れを集め、選ばれる「まち」をつくる

目標2：“ふるさと愛”の最大化で「ひと」を育てる

目標3：域内経済の好循環を導いて「しごと」を生み出す

目標4：「甲賀らしく」市民幸福度を追求する

まち・ひと・しごと 創生総合戦略（国）

<基本目標①>

- ・ 地方における安定した雇用を創出する

<基本目標②>

- ・ 地方への新しいひとの流れをつくる

<基本目標③>

- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<基本目標④>

- ・ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

甲賀市の戦略検討のポイント

- この戦略は「人口減少社会」からの脱却を図るもの。
- 日々の生活のなかで幸せを感じる：甲賀市では「市民幸福度の追求」が戦略の理念のキモ。
- 若い世代の希望に応える：就労（働き方）・結婚・出産・子育ての多様な選択肢をつくる
- まちを「売り込む」（シティ・プロモーション）：定住・交流人口を呼び込むため、「選ばれる力」を高め、発信する。
- 誇りの醸成（シビック・プライド）：市民の“ふるさと愛”を高める。
- 「仕事」と「働く人」のマッチング支援：若者と女性などの仕事・職場の理解とニーズに即した雇用の創出等を促進する。
- 小さな拠点（コンパクト・ビレッジ）：都市機能の最適化と各地域の特色を活かしたまちづくりを進める。

4. 重視する視点

① 「攻め」と「守り」で、急激な人口減少を避ける

人口減少の対策には、出生率の向上によって人口の増加と人口構造の安定化を図る「積極策」と、避けられない人口減少に向き合い、地域社会の仕組みを今後の人口構造の予測に即したものに再構築する「調整策」があります。

本戦略では、これら「積極策」「調整策」を両輪として、併せて推進することを重視します。

② 若い世代の希望に応える、多様な選択肢をつくる

甲賀市の将来を担う市民が、自分たちが持つ「希望」をかなえることができるまちをつくるのが、現在の甲賀市をあずかる私たちの使命です。

本戦略では、甲賀市に住み続けたい・移り住みたい、このまちで働きたい、結婚したり、子どもを産み育てたりしたいという、次世代の「希望」に応えていくことを重視し、社会環境に選択肢の幅を広げていきます。

③ 地域資源を活用し、地域ごとの魅力創生を図る

約 482km²という広い面積の甲賀市には、人口が増加している地域、過疎が進んでいる地域があり、人口動向に伴う地域環境の変化も一様ではありません。もちろん、歴史的・文化的な特性も地域ごとに様々です。

それぞれの地域では、地域の特性・実情を踏まえた主体的な取り組みによって、地域に賦存する様々な資源を発見・再発見し、取り結び、生かして、これからの各地域、市全体の発展につないでいく必要があります。

本戦略では「今ある地域資源（あるもの）」を最大に活かすことを重視します。また、「今ない地域資源（ないもの）」については、それを見つけるチャンスが残されていると捉えて、新たな地域資源を見つけて活かすチャレンジを重視します。

5. 戦略の期間

平成 27 年 (2015 年) 度からの 5 年間

平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度の 5 年間とします。なお、平成 29 年 4 月を期首とする「(仮称) 第 2 次甲賀市総合計画」の検討・推進を踏まえて、必要に応じた見直しを行います。

6. 戦略の推進

① 市民に見える“旗”を立てる

地域創生は、少子・高齢化と人口減少による、劇的な人口構造の変化が進む中で、自律的で継続的な地域社会を保つため、地域の特性を最大に生かしながら、戦略的かつ集中的に行うものです。

そのため、戦略目標の達成に向けて、行政が強力にリーダーシップを発揮し、市民・産・学・官・金融機関などの総力戦で人口減少に立ち向かいます。

② 臨機の改善を繰り返す

各戦略プロジェクトは、短期・集中的に行い、戦略目標達成に向けて実効を上げる必要があることから、係る事業の実施にあっては、重要業績評価指標（KPI）を設定・活用し、適時の効果検証と不断の計画見直しを行います。

③ 県、他市町と共に立ち向かう

人口減少問題は、甲賀市が独力で対策できるものではありません。県内市町間で係る課題を共有しつつ、互いの切磋琢磨と地域の魅力を高めることで、滋賀県全体の創生を図る立場から、人口減少問題に立ち向かっていきます。

7. 戦略プロジェクト

4つの戦略の目標それぞれについて、これを達成するための基本的な方針、戦略プロジェクト等について以下に示します。

目標 1 : みんなの憧れを集め、選ばれる「まち」をつくる

－新しい「ひと」と「もの」の流れをつくる－

<数値目標>

- 市内に住みつづけたいと思っている人の割合：5年後に●%
- 転入者数：5年後に●●人に増加
- 転出者数：5年後に●●人に減少
- 市外からの移住件数：5年間で●●人（累計）
- JR草津線駅乗車人員（1日あたり）：5年後に●●人に増加
- コミュニティバス利用者数：5年後に●●人に増加

【方針】

- 甲賀市から、未来を夢みて羽ばたいた若者が「将来、甲賀市に帰りたい」「ふるさとで志をかなえたい」と思えるようなまちの魅力をつくり、また、まちの暮らしやすさ、働きやすさを全国に発信して、UIJターンを導きます。
- 市民生活の利便性を支えている道路・公共交通のネットワークの重要性を再認識し、その強化・充実によって、「ひと」と「もの」の新しい流れを常に生み出し続けていきます。
- みんなが憧れ、人々からも企業からも選ばれる「まち」となるため、“忍者”という他の自治体にはない、世界的に有力なコンテンツを生かしたシティ・プロモーションを展開します。

【「まち」をつくる4つのプロジェクト】（文案調整中）

移住定住促進プロジェクト

人口減少の課題を地域と共有し、まちからの移住希望者の様々なニーズに応え、就労支援や移住に必要な情報提供を行い、地域とともに受入れ体制を充実することで「ふるさと回帰」を支援します。また、本市の住みやすさを市内外に発信することで移住定住者を増やします。

- 移住定住者など住宅に対する支援制度
- 仕事や住まい、子育て、教育などの一元的な情報提供
- 空き家と農地をセットにした移住促進のしくみづくり
- 地域おこし協力隊の積極的導入
- 定住情報窓口の一元化

公共交通ベストミックスプロジェクト

JR 草津線の利便性を高めるとともに、市内の「みち」を中心とした公共交通ネットワークを再編し、バスの交通体系をシンプル化することで、鉄道とのベストミックスを図ります。

また、中山間地域に住む小中高生が、家から希望の学校に通学しやすい環境を整え、学びを支援するとともに、家庭の負担を軽減します。

- JR 草津線の輸送力増強と利便性向上
- 利便性の高いデマンド交通システムの整備
- 中山間地域から通学するためのアクセス改善
- 時代に合わせた社会基盤（インフラ）の整備

新しい都市計画プロジェクト

今後の人口減少に適応した都市構造への転換を図るため、都市機能の集約を進めるとともに、コンパクトビレッジの考え方に基づく居住を促進します。

また、JR 草津線沿線における良質な住環境の誘導に向けた土地利用規制を進め、人口流出の歯止めとなる「ダム機能」を設けます。

- 都市計画マスタープランの見直し（立地適正化）
- 都市計画区域の整備・開発及び農地保全の方針の見直し
- 貴生川駅の交通機能の充実と周辺への住宅誘導
- JR 甲南駅市街地整備事業

世界に「忍者」を魅せる、甲賀観光未来プロジェクト

東京オリンピックの開催を見据え、日本を代表するクールコンテンツである「忍者」をキーワードとし、広域連携によるスケールメリットを活かしたインバウンド戦略を進めます。

また、専門性の高いマーケティングや戦略的な地域づくりの中核を担う観光組織として、甲賀市版観光 DMO の立ち上げをめざし、東海道の町なみや紫香楽（信楽焼）、お茶など地域の素材、自然、文化、伝統技術のブランディング戦略を進めます。

- 忍者を活かした観光戦略
- 観光協会のエキスパート化
- シティセールス強化事業
- おもてなし環境の整備、インバウンド獲得・宿泊促進

目標2：“ふるさと愛”の最大化で「ひと」を育てる

－若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる－

<数値目標>

- 待機児童数：0人（継続）
- 合計特殊出生率：平成31年度：●●人
- 出生数：●●人
- 3人目以降を妊娠した人の数：5年後に●●人に増加
- 既婚率：●%
- 全国学力・学習状況調査「授業の内容がよくわかる」と回答した割合：
（小学校）平成26年度 ●%⇒平成31年度●%
（中学校）平成26年度 ●%⇒平成31年度●%
- 不登校の児童数：5年後に●●人に減少

【方針】

- 甲賀の子どもが、健やかにたくましく成長し自立する過程を、ふるさとの自然と多世代の見守り・交流のもとでしっかりと支えて、「生きる力」の可能性に満ちた「ひと」を育てます。
- 若い世代が、心豊かな交流のもとでパートナーと出会い、新しい家族をつくるチャンスを広げます。
- 若い世代の出産・子育ての希望を実現できるよう、安心して出産や育児を楽しめる社会環境を充実させます。
- 都市部への若者の流出を減らし、進学や就職を機に転出した人の里帰りやUターンが進むよう、保育や学校教育などを通じて、甲賀の子ども“ふるさと愛”を最大化します。

【「ひと」を育てる4つのプロジェクト】（文案調整中）

いつでも待機児童ゼロプロジェクト

子育て世代が安心して働けるよう、現在の待機児童ゼロ施策をさらに進め、いつでも保育サービスを受けることができる、いわば「ゼロからマイナス状態」とします。また、多様な保育サービスと学童保育の充実を図ります。

- 多様な保育サービスの充実
- 地域のニーズに合わせた保育所、児童クラブの整備
- 潜在保育士の再就職や保育の担い手の確保・育成
- いつでも保育を受けることのできる制度の構築

こうかで 1 more baby プロジェクト

本市の子育て環境を充実するとともに、その素晴らしさを全国に発信し、子どもを産み育てることの魅力と喜びを市内の若者に伝えます。また、妊娠・出産・子育ての希望をかなえるため、世代と地域を越えた支援を行います。

- 多子世帯への支援（子育て応援医療費、保育料など）
- 妊娠・出産・子育てのライフプランニングおよびポジティブキャンペーン
- 男女を問わない不妊治療への助成
- 子ども・子育て応援団ネットワークの充実
- 子育て支援企業に対する応援や金融機関との連携
- 妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援体制と身近な子育て拠点の整備

結婚しませんかプロジェクト

農業や自然など、本市ならではの環境を活かした若者の出会いの場を官民連携して創出します。また、流出傾向の高い若年女性に市内に留まってもらうための取り組みを進めます。

- 若者の「出会い」と「結婚」の機会づくり
- 若者の雇用・生活の安定のための処遇改善と企業への支援

学ぶ子にこたえるプロジェクト

地域を愛し、自慢する子どもを育てるとともに、世界に通用する「生きる力」と英智を高める教育を行い、チャレンジ精神を育みます。また、「学び」を探求する若者が心配することなく、夢を追いかけることができるような支援を行います。

- 確かな学力（基礎学力）の育成
- 初等教育の充実
- 高等教育を学ぶ若者への支援
- 小中一貫教育の計画的導入

目標3：域内経済の好循環を導いて「しごと」を生み出す

－みんなが安心して働けるようにする－

<数値目標>

- 昼夜間人口比率：●●%
- 就業者数（女性）：5年後に●●人に増加
- 20歳代の完全失業率：5年後に●%
- 女性の転出超過数(25歳～34歳)：5年後に●●人に減少
- 新規創業者数（男女別）：5年間で●●件（累計）
- 新規就農者数：5年間で●●人
- 新規自伐林家の数：5年間で●●人（累計）
- 観光入込客数（ゴルフ場除く）：5年後に●●人に増加
- 宿泊者数：5年後に●●人に増加
 - 〃（外国人）：5年後に●●人に増加

【方針】

- 「甲賀市ならではの」の地場産業や地域資源を世界に発信し、また、地域の特性に応じた企業誘致を図ります。
- とりわけ若者や女性が、甲賀市内でやりがいのある仕事に就き、自分の能力を活かして安定した所得を得られるよう「しごと」の選択肢をつくります。
- 農林業の革新を進めて、さまざまな業種とのマッチング・コラボレーション等によって新たな魅力を創出し、若者や女性の就業に結びつけていきます。

【「しごと」を生み出す4つのプロジェクト】（文案調整中）

地域の「稼ぐ力」創造プロジェクト

地域経済の引き上げを図るため、域外需要を取り込む可能性を秘めた、地場産業を活かした地域の中堅・中小企業を発掘し、戦略策定・海外展開・販路開拓等の一貫した支援を実現することで、中核企業への成長を促すとともに、取引先への波及効果を生み出します。また、市内における安定した雇用を確保し、企業から選ばれるまちとして、戦略的な企業誘致施策を進めます。

- 企業立地（誘致）・本社機能の移転の推進
- 地場産業を活かした中小企業・小規模企業の活性化
- 新しい工業団地の整備

「働きたい」をかなえるプロジェクト

市内企業の魅力を伝え、若者が希望する職種を掘り起こすとともに、市民が市内で安心して働ける環境を整える企業を支援することで、若い世代の経済基盤を確保します。また、中高生に対して「ものづくり」の魅力を伝えるなど、職業教育・キャリア教育の充実を図り、将来の夢をリアルに描ける若者を育てます。

- 市内企業の魅力の発信、起業による雇用の促進
- 社会人・職業人としての自立に向けたキャリア教育の充実
- 「ものづくり」を支える技術者の育成と起業支援
- ハローワークや大学との連携による就職機会の創出

女性の活躍プロジェクト

女性が活躍できない、暮らしにくい社会は男性・高齢者・子どもも暮らしにくいはず。子育てしながら仕事で能力を存分に発揮していただくため、行政と企業が連携して、ワーク・ライフ・バランスを強く推進し、働き方を改革します。また、地域や仕事で活躍したい女性が、活躍しやすい環境を整え、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行います。

- 働きたい女性に対する就業支援
- 女性が活躍するための男性への支援
- 三世帯同居・近居のための支援

持続可能な農村価値創生プロジェクト

プロフェッショナル人材の新規就農を進めるとともに農林産品の付加価値を高めるため「6次産業化」や「農商工連携」「農観連携」「医福食農連携」「農エネ連携」といった他分野との連携を推進します。特に立ち上がり期における支援を充実させ、生産性向上・成長産業化を促します。

また、これまで中山間地域の里地里山を支えてきた、農業を営むことと他の仕事を両立させる「半農半X」というライフスタイルを支援し、若者や女性の新たなビジネスモデルの提案の場として、農村の価値を高めます。

- 新規就農やふるさと創業・第二創業への支援
- 木質バイオマスなどエネルギーの地産地消に向けた取り組みの推進
- 貸し農園、道の駅、農家レストラン等の都市・農村交流の促進
- 甲賀野菜による地産地消の仕組みと食育の推進
- 中山間地域における耕作放棄地対策の推進

目標4：「甲賀らしく」市民幸福度を追求する

-安全・安心な暮らしを守り、地域の自治を“進化”させる-

<数値目標>

- 幸せを感じている人の割合：●%
- 「小さな拠点（多世代・多機能）」の形成数：●●箇所
- 65歳～74歳の就業率：5年後に●%
- 介護保険第1号認定率：5年後に●%以下
- 在宅療養支援診療所数：5年後に●箇所
- セーフコミュニティに関心がある人の割合：●%
- 納税者1人あたり所得：●万円
- 行政サービスに満足している人の割合：●%

【方針】

- 私たちが守ってきた豊かな自然環境や、地域の生活とともにある伝統的な文化、人々のきずなに根ざした安心の地域コミュニティを活かしながら、人口減少に適応した都市機能の最適化を図ります。
- 若者、女性、高齢者、来訪者など、誰もが地域との関わり合いを持ち、その人らしく活躍できる場が見つけられるまちづくりを進め、多様な人の多彩な能力を集めて活かします。
- 産官学金の各機能が分散配置された甲賀市の特性を生かして、農村の新たな可能性と成長・発展モデルを全国に発信する「コンパクト・ビレッジ」を創ります。
- 地域に住む人・関わる人が、地域の未来をともに選択し、希望をかなえる「小規模多機能自治」の取り組みを推進し、市民幸福度の最大化と地域の自治を“進化”させます。

【「市民幸福度」を追求する4つのプロジェクト】（文案調整中）

小さな経済、小さな拠点プロジェクト

中山間地域では、人口減少に伴い住民の生活に必要な生活サービス機能（医療・介護、福祉、教育、買い物、公共交通、物流、燃料供給等）の提供に支障が生じようとしています。このことから基幹となる地域と周辺集落とのネットワークを構築し、ひと・モノ・情報の交流の場となる「小さな拠点（多世代交流・多機能型）」をつくることで、地域の「生業」と「文化」を継承します。

- 小さな拠点づくり
- コンパクト+ネットワークの地域構造への転換

健康寿命を延ばそうプロジェクト

高齢者ひとは「ひとつの図書館」といえるほど、貴重な地域の“財産”です。高齢者の方々が今まで以上に職場・地域で活躍していただくため、健康寿命を延ばし、介護や医療が必要となっても、医療機関や多世代・地域で支え合い、住み慣れた地域で自分らしく生活できるような仕組みをつくる必要があります。このことから“福祉”のみで考えるのではなく、“地域”から考える「全世代・全対象型地域包括支援」に取り組みます。

- 地域包括ケアシステム（医療・介護・予防・住まい・生活支援など）の構築
- 高齢者の学びと地域貢献・起業・就業支援
- 未来を見据えた地域医療構想の策定と推進

セーフコミュニティ推進プロジェクト

安全で安心して暮らせるまちの環境の良さなどは、居住地選択や企業の誘致において重要視されるところです。

セーフコミュニティを中心として、地域住民同士のつながりを強化し、次世代を担う若者のまちづくりへの参画を促進し、多世代・多様な主体による地域活動の担い手づくり、場づくりを推進します。

- セーフコミュニティの推進
- 地域防災力の中核となる消防団活動の理解促進
- 若者が参加したくなる地域コミュニティの創造

新時代の行政サービスプロジェクト

人口減少時代にあった行政サービスの実現に向けて、市民に親しまれる市役所づくりとサービスの提供に取り組みます。また、市民の納得を得ながら徹底した合理化と、行政コストの縮減を図り、民間活力の活用を推進します。

また、少子化や人口減少により、本来の目的を終えた公共施設について、民間を含めた地域の経営資源を活かし、新たな価値を生み出すリノベーションの取り組みを進めます。

- 公共施設の集約と利用に係る規制緩和の推進
- 地域コミュニティの維持のための空きキャパシティの活用（空き家、空き商店、空き学校、空き農地（耕作放棄地）、空き公共施設等）
- 持続可能な財政運営を支える財源の確保
- ICTを活用した行政サービスの革新